

あなたのサステナブルな取組を国内外に発信しませんか？ ～「サステナアワード 2024」募集中～

農林水産省は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、「みどりの食料システム戦略」を推進しています。その一環で、消費者庁、環境省と連携し、「あふの環（わ）2030 プロジェクト」を実施しています。

本プロジェクトにおいて、食や農林水産業に関わるサステナブルな取組動画を表彰する「サステナアワード 2024」の募集をしています。特に優れた作品には、農林水産大臣賞、環境大臣賞、消費者庁長官賞及び AgVenture Lab 賞を授与します。

1.サステナアワードとは

食や農林水産業に関わるサステナブルな消費、環境との調和、脱炭素、生物多様性、資源循環など、サステナブルな生産やサービス・商品を扱う地域・生産者・事業者の取組に関する動画作品を募集します。優秀な作品を表彰し、あふの環プロジェクトホームページや省公式 YouTube チャンネル（maffchannel）で紹介するとともに、農林水産省、消費者庁、環境省の様々なイベント等で発信するほか、特に優れた作品は、英語版の動画を作成し、国際会議の場などを通じて世界に広く発信します。

2.募集内容

(1) 応募テーマ

食や農林水産業に関する、持続可能な消費、環境との調和、脱炭素、生物多様性、資源循環などのサステナブルな取組（食や農林水産業のサステナビリティに関する6つの取組（詳細は下記参照））。

6つの項目とその例

<p>とめよう 温暖化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化石燃料の使用を減らしている ・適切に管理された森林由来の木材や紙を使っている ・家畜の飼育に国産のエサを使っている(概ね8割以上) 	<p>へらそう ごみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包装を減らしている ・通常廃棄される食品等を活用している ・バイオマス由来の廃棄物を有効活用している
<p>まもろう いきもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農薬や化学肥料を使わない有機農業を行っている ・資源を守りつつ漁業を行っている ・水田の冬期湛水を行っている 	<p>みんなで 支え合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行き場がない農産物等の支援を行っている ・フードバンクやこども食堂と連携して必要な人に届ける ・人手が足りない農林漁業者を支えている
<p>まもろう 水</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排水量の削減など環境への負荷を低減している ・地下水等を汚染させないよう適切な管理を行っている ・生産過程で水を過剰に使わないよう工夫している 	<p>まもろう 土</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌診断を行って化学肥料の投入を最小化している ・被覆作物を植える等で土壌浸食を防いでいる ・有害物質で汚染させないようにしている

ただし、少なくとも1つの項目は考慮されており、他の項目に負の影響を及ぼさない取組であること。また、当該取組が商品の場合、その内容について、企業ホームページ等で情報が確認できること（認証やタグから確認できるものでも可）。

(2) 応募資格

食や農林水産業のサステナビリティに関心のある団体（企業、学校、NPO、自治体、地域コミュニティ等）。ただし、農林水産事業体については、個人であっても参加可能とします。プロ、アマ、年齢不問（ただし、未成年は保護者等の了解を得た上で応募すること）。

(3) 応募方法

最長3分30秒の動画を、企業や事業者、団体等のYouTubeチャンネルで公開し（限定公開可）、オンラインの応募フォームに必要事項を記入し、応募すること（1団体当たり3点まで応募可能）。

(4) 募集期間

令和6年8月6日（火曜日）から令和6年11月15日（金曜日）まで

※ 応募先や応募方法等の詳細な情報は、あふの環プロジェクト公式ホームページをご参照ください。

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyoseisaku/being_sustainable/sa2024.html

埼玉県吉川市で唯一いちごを栽培する、就農4年目の(株)永瀬農産「吉川いちごの里」の農場長、永瀬美香さんをご紹介します。

永瀬さんは、吉川市で唯一いちごを栽培している就農4年目の新規就農者です。

元々、いちごが大好きで、小学生の時に祖父からいちごの苗をプレゼントされプランターで育てたことで、いちご栽培に興味を持ったそうです。

普通高校を卒業後、農業以外の職を考え専門学校に入学しましたが、いちご栽培の夢を諦められずにいたときに、農作業の受託をしている(株)永瀬農産代表である父から、「いちご栽培をやらないか？」との声掛けもあり、就農を決意しました。

就農に当たっては、知識や技術の習得が必要のため農業大学校への入校も考えましたが、同校は自宅から遠く、同じ学ぶなら近隣で研修を受けたいと考え、自らいちご栽培が盛んな越谷市で研修先を見つけ、2年間研修に励まれました。

令和3年に、(株)永瀬農産が所有する17aの水田に自己資金と金融機関からの借入によりハウス1棟(13a)を建設し、(株)永瀬農産「吉川いちごの里」として「恋みのり」と「紅ほっぺ」の2品種で栽培をスタートさせました。当初は、ハダニの被害を受け商品にならないものが発生したり、収穫に手が回らず収穫時期を逸してしまったものもあったとのことですが、困ったことがあると研修先の農園や高設栽培に詳しい業者に相談しているそうです。一方で、9月に定植する種子繁殖型品種の「よつぼし」と「ベリーポップ はるひ」は、自ら苗を育てるなど向上心がありチャレンジ精神も旺盛です。

主な販売先は、JAの直売所や市内のショッピングモールなどですが、お客様から伝わって取引が始まったお菓子類の小売店もあるそうです。また、隣接市のスーパーから、「当店でも販売してもらえないか。」と声をかけられているそうですが、人手不足でもあり検討中とのことでした。

今の課題は、クラウンと呼ばれる株元が1cmを超える苗を作って、いちごを栽培している誰もが『いい苗だね』とってくれるような苗を作れるようになることと、暑さ対策を講じて生産環境を整えること、とのことでした。

将来は、「ハウスは、ベビーカーや車椅子でも入れるよう既に通路を広くしており、今の3倍ぐらいに規模を拡大し、観光農園や直売所をオープンさせたい。また、自分で新しい品種を作りたい。」と夢を語ってくれました。

就農を目指す人へ一言、「何でも挑戦してみること！」。



永瀬 美香さん (写真提供: 吉川市)



「かおり野」の苗の手入れをする永瀬農場長